

OTONANOGU-WA

息子と

WITH MY SON UNDER THE SAME ROOF

おなじ屋根の下で

成人向け漫画



ADULT ONLY

ああ…まただ
最近、息子からの視線を感じる

ねつとりと身体に絡みつくような
視線

けっして母親に向けておくる
視線では無い
男性が女性に向けてくるあの視線
最近はお数も少なく最初は反抗期
なのかなとも思ったのだが…

話しかければ返答も返ってくる
ただいつの間にか私の側にいて
じっと見ているのだ

別に…
普通だよ

気をつけて…

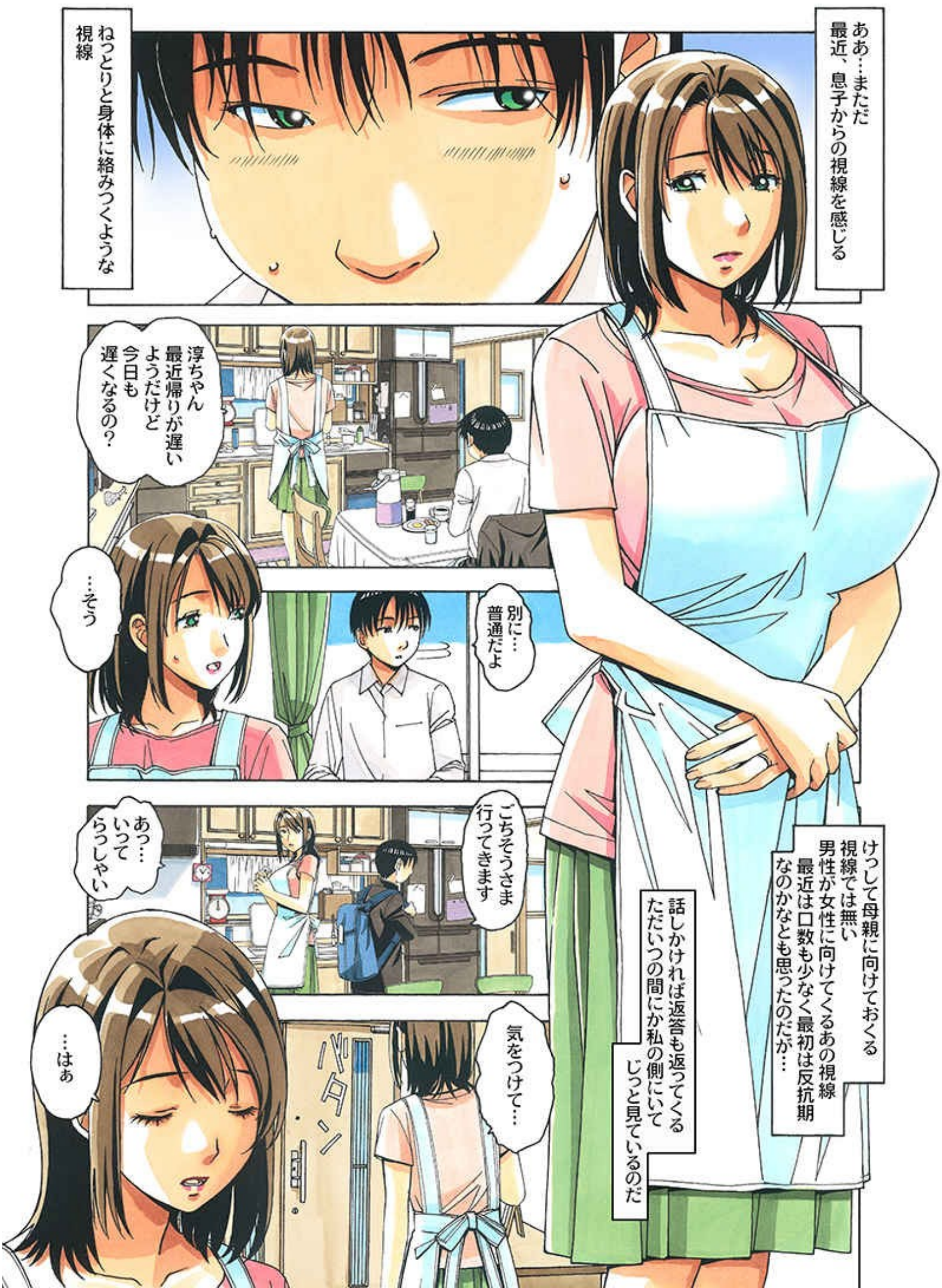
ごちそうさま
行ってきます

淳ちゃん
最近帰りが遅い
ようだけど
今日も
遅くなるの？

…そう

あっ…
いつて
らっしゃい

…はあ



不安になった私は夫に連絡を入れた

別に心配する
ほどの事じゃない
だろう
ほっとけばいいさ
知らんぷりして
いればいい

でも、あの子
私の下着を……

あの年頃は
身近にいる異性に
興味を持つものだ
それがたまたま
母親であるおまえに
興味を示しただけだ
ろう

麻疹みたいなものだ
同年代の彼女でも
できればすぐに
治まる

夫からの返答はそっけないものだった

話はそれだけか？
仕事が残ってるんだ
切るぞ？

あつ……
待つて、まだ

ツーツー……

……

年頃の少年が異性に興味を持つのは
当然だと思う
普通であれば息子もそんな年頃に
なったんだと成長を微笑ましく思う
ところなのだけれど……

対象が母親である私というのは
変だと思う
夫が言うように拒絶すればいいのかしら？

でもそれが原因で性欲の発散に
余所さまの女の子を襲ったりして
警察に捕まるなんてことになった
りしたら
淳ちゃんも犯罪者に……

そんなのダメよ
あああつ！
どうしたら
いいのかしら！



本来であれば決して許されない行為
でも
淳ちゃんを射精させたことに対し
喜びを感じている私がいる

なんてはしたない母親だろう

自分の息子を射精に導くなんて

今でも射精させた時の感覚が忘れられない

あの幼かった淳ちゃんが

いつの間にか雄に成長していた

力強く脈動しながら吐精された精液は
とても熱く、淳ちゃんの射精に併せて
私も軽くイッてしまった



淳ちゃんは私を性の対象として見ていた
自分の母親を女としてみていたということだ

淳ちゃん？

ママっ！

はっ

はっ

いったいどんな想像をしたたのだったの？

淳ちゃんの想像の中の私はどんなだったの
だろう？ 抵抗したりそれともされるがままに
犯されたのだろうか？

ズッ
ズッ

ひいひいっ！
止めてえ
淳ちゃん！

何をするの？
いいやつ！
止めなさい

こんなこと
いけないわ！

あっ

あん

はあ

あっ

はあ

あく…

はあ

自分を生んだ母親を犯すなんて…
そんなこと絶対に許されるはずがないのに
でも、禁忌だからこそソクソクとする
興奮が芽生えるのかしら？

ついに淳ちゃんと肉体関係をもってしまった…

アプン

淳ちゃんの出した精液

射精時、ゴム越しにもしっかり
感じられた

こんなゴツテリした精液を体内で
射精されたらきつと……

あああ…
すごい量…

ねとお

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン

んっ…

淳ちゃんの体内で育成された精液
そう思うと感慨深く愛おしい
このまま死滅させてしまうのは
あまりにも不憫に思った私は――

ああっ…

あふ…

あっ

んっ

あっ

女を妊娠させてしまうかもしれない
危険な精液を私の性器に塗す
精液と愛液が混じり粘ついた粘着音
が奏でる

チク

クマ

ニギ

チャ